



「十九年度 国語研究委員会の活動」(中心講師を迎えて)

国語研究委員会委員長 竹内 正

本年度、国語研究委員会で
は、本郡教育会中心講師の益
地憲一先生(信州大学教授)
のご指導を直接賜りながら、
郡研究テーマ「確かな学力を
育むための自己表現力の指導
はどうあったらよいか」を受
け、とりわけ文字言語に焦点
を当て、国語科研究委員会の
テーマを「子どもたちが書く
ことに意欲的に取り組み、自
己表現力を高めていくための
指導はどうあったらよいか」
と設定し初年度の研究をスタ
ートした。「自己表現力の育
成」という面では、昨年度ま
での国語委員会の研究テーマ
「コミュニケーションの力を
高め、表現活動に意欲的に取
り組む授業のありかたはどう
あったらよいか」ともつなが
りがあり継続的側面を持つテ
ーマであると認識している。
そこで昨年度までの成果をふ
まえてより焦点的な研究を
進めていきたいと考え本テ

マを設定した。
まず「自己表現力の育成」に
関わる昨年度までの成果を以
下のように共通理解し合った。
一、児童生徒の必要感に支え
られた「実の場」の設定
二、表現の向かう相手への意
識を高める支援
三、児童生徒が表現したい内
容をより明確に持つこと
ができるような支援
四、具体的な言語活動に即し
て知識技能を高めていく
支援
加えて益地先生よりいただ
いたご指導「今日の授業をど
うするか」(子どもと教師が
共に育つ場の九条件)を指針
とし研究を進めてきた。
去る十一月七日(水)には高
山小学校において益地先生を
お招きし、単元名「リンゴのこ
とがわかったよ」(授業者前田
博展教諭)の貴重な「書くこと」
の実践を通して学び合うこと
ができた。
(仁礼小)

第207号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会理事長 黒岩和博
編集人 会報編集委員長 宮下芳一
印刷所 須坂新聞社

本校の中核活動

PTA資源回収の取り組み

豊洲小学校

本校では、春秋年二回の資
源回収が学校の一大イベント
として、しっかりと定着してい
ます。
本校PTA会員の皆様はも
とより、地域全体の皆様が、
様々な物資をこの行事のため
に半年間貯めておいていただ
いたり、トラックなどの車両
を提供していただいたりと、
気持ちよく協力していただい
てくることが何よりの支えとな
っています。
資源回収活動の推進は、P
TAの総務部が中心となり、
事前に各地区内への連絡を徹
底していきます。とても熱心
に活動してくださるので、大
量の物資も、各地区で大変ス
ムーズに処理されます。
一回の資源回収で出される
物資がどのくらい大量かと言
いますと、新聞紙は十ト
ラック二台分、ダンボールはパ
ッカー車二台分、雑誌類も大
型トラック二台分くらいにな
ります。その他に、アルミ缶
やビン類なども相当な量に達
します。
各地区で集められた物資は、
トラックで、春は農協の共撰

所、秋は本校校庭の、メイ
ン会場に集約されます。
ピーク時にはメイン会場に
物資が次々と運び込まれ、ト
ラックが数珠繋ぎになること
も珍しくありません。
そこでは、保護者、学校職
員、時には高学年の子どもた
ちも交じって、物資をトラッ
クのコンテナ等に積み上げて
いきます。力仕事ではありま
すが、それぞれの楽しい会話
も力にして、いつの間にか、
たくさんつながっていたトラ
ックも荷台を空にして、各地
区に戻っていきます。
年二
回全地
域をあ
けて行
われる
資源回
収、最
近は物資高騰もあり、年間で百
万円近い金額に上るようにな
りました。大変ありがたいこと
です。それらを活用して、スク
リーンや一輪車等を購入して
子どもたちの生活を豊かにし
たり、学校設備の充実を図った
りしています。(富田 昌秀)



教育会だより

- 7 31 教育会講演会(須坂市文化会館)
○講師 作家 童門冬二 先生
○演題 「歴史に学ぶ、まちづくり」
- 7 31 各同好会夏期講習会
- 8 23 日本連合教育会 香川大会
『夢に向かって未来を切り開く、まじい日本の育成』
- 9 4 郡研究推進委員会③
- 9 5 第4回理事会
- 9 7 第5回同好会
- 9 18 第4回代議員会
- 10 5 研究推進委員会④
- 10 6 上高井教育研究会集會 墨坂中学校
第5回理事会
- 10 10 郡市科学作品展(シルキーホール)
第6回同好会
- 10 13 研究推進委員会⑤
- 10 23 研究企画委員会
- 11 1 信教全県研究大会東北信A 佐久
共和小・本牧小・望月小
- 11 8 信教全県研究大会東北信B 飯水
戸狩小・第三中
- 11 16 研究推進委員会⑥
- 11 17 郡公開研究会
- 11 17 中心講師 益地憲一 先生
- 11 17 国語研究委員会(高山小)
社会豊洲少、算数数学日滝少、
理科旭小、生活総合日野少、音楽常盤中
図工美術森小、体育保体(小布施中)、
家庭技家相森中、英語活動英語薬方小
道徳須坂少、特別活動東中、
特別支援教育高山中、
健康教育墨坂中、権間和教(山小)
- 11 17 中間会計監査会
- 11 17 第6回理事会
- 11 17 第3回研究委員長会、研究企画委員会
「信州教育の日」第6回大会
- 11 17 第7回同好会
- 11 23 研究推進委員会⑦
- 12 7 第5回代議員会
- 12 14 上高井教育会会報第207号発行
第8回同好会

地域と共に 学校創立記念事業



カット
相森中 酒井秀雄

地域に支えられ、新たな一歩を踏み出した創立五十周年

小布施中学校

今年度、小布施中学校は創立五十周年を迎えました。本校では、この一年間を通して五十周年を祝い、歴史を振り返るとともに新たな一歩を踏み出す節目の年として、教育活動を展開しています。

小布施中は地域との連携・交流が深く、昭和三十三年本校が創設された頃には、PTAの皆さんが各家庭から樹木を持ち寄り、校地内植樹および環境整備作業が行われました。また、十年ほど前から選択教科の外部講師や部活動の外部コーチ等を地域の方々にお願いし、現在でも地域住民の教育活動への参加が継続されています。生徒の地域行事とのつながりも強く、「くりんこ祭り」や「キンボール小山田杯」等が行われています。生徒会では「お年寄りとのお流し給食」「小布施荘のボランティア喫茶」「千年樹の里まつりへの参加」等の活動が続いています。さらに、町生徒



地域と共に六十周年

常盤中学校

常盤中学校は、今年創立六十周年を迎えました。本校では、昨年の八月から記念事業推進委員会を設立し、

記念式典、記念祝賀会の開催をはじめ、記念誌の発刊、航空写真撮影、並びに記念品作成等の事業を実施しました。

記念式典は、十月二十九日に常盤中学校の体育館で五百人ほどの関係者の参加のもと、盛大に実施することができました。新たに四部合唱に編曲していた、いただいた校歌披露の場面では、息の合った爽やかなハーモニイが会場に響きわたりました。記念コンサートでは、本校出身で著名なホルン奏者である水野信行様とピアノ二ストの

松岡美絵様に「ホルンとピアノの調べ」を演奏していただき、芸術性の高い優雅な演奏を聴くことができました。また、懐かしい旧校舎の映像も上映したところ、参加者から当時を懐かしむ声をたくさんいただきました。

（白鳥 保美）

「三心自立」を心に

東中学校

本校は、本年、創立五十周年を迎えました。十一月二日には須坂市長様をはじめ多数のご来賓の皆様にご臨席いただき、盛大に式典を挙行することができました。地域に支えられ、

できました。地元で旅館業を営まれていた金井辰巳様からは「若きコロンブスたちに」と題して、「自分を見つめ目的を持ち実現の方法を考えること」「心の羅針盤を持つこと」と生き方に触れてご講演をいただきました。そして、山岸孝記様には卒業生としての熱意や思いが込められた「三心自立」の記念碑を作製していただきました。

いた生徒が、最後の校歌を歌う場面では背筋をピンと伸ばし真剣に歌っている。感動してしまいました」とお話をいただきました。記念音楽会の三日前にご指導をいただいた小林雅彦先生の「東中の生徒は、事あるたびに校歌を歌い、校歌を大事にしてきた」とのお話が重なりました。

五十周年事業に際し、三人の本校卒業生の方のお力添えをいただきました。地元にお住まいの画家滝沢敏様からは環境庁長官賞を受賞された思い入れのある絵画をご寄贈いた

ように見えた。十一月十四日の学校評議員会で、「あまり話を聞いていない」とお話をいただきました。



（小林 和市）

きつと、東中生はこれらを心の財産として自分の人生を拓いていくに違いないと確信しました。

楽しく分かる授業作りと 基礎学力の定着・伸長をめざして

井上 小学校

本校では、職員が共同で学び合い、学習指導を深めていくための「重点研究会」と、一人ひとりが課題を持つて全校に公開する「一人一課題一公開授業」を実施しています。「重点研究会」では、人権同和教育部会と理科部会に分かれて研究をしました。

人権同和教育部会では、子どもの実態の捉えに立って、つまづきを予想したり、考え方の傾向を分析したりして、子どもたちに寄り添った授業

作りを志向しました。

理科部会では、分かりやすい授業をという願いから、条件を少なくして対照実験させたり、自分の考えの道筋がわかるような記録ができる学習カードの工夫をしたり、個人で実験ができるような場の設定をしたりしました。

「一人一課題一公開授業」では、学習問題や課題の明確化に加えて、今年度は、指導と評価の一体化のために座席表を活用し、その授業に照ら

「本校の研究テーマを前にして」

墨坂 中学校

墨坂中学校では、今年度研究テーマに「私の学びを育む教育課程づくり」をかかげ取り組んでいます。小学校を卒業して本校に入学してくる生徒たち個々の学びの基礎力はもう既に、それぞれ違っているわけです。(学びの基礎力を図一のように考えてみました。)

例えば、A生が、「単元のまとめをしよう」という一時間の授業で、大切な用語をおさえたプリントを前にしてなかなか取り組めないで居るのです。教科書で調べたり、友と相談したりという姿もなかなか見えませ

ん。関わりが持てるB生は、大きな声でつぶやいたり質問したりしながらも問題を解いています。A生が、このまとめの授業の十時間を、このような姿勢で取りくんではいたら、知識・理解という点では定着が遅れてくるということが出てくると思うのです。この生徒が、こ

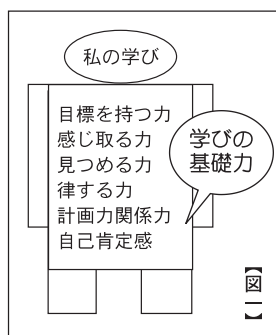
つことと継続して取り組んだり、自分の学びを律したりする力が身についてきていたならば、プリントを使ってまとめにくい授業にも、意欲的に取り組んでいたかもしれないと思うのです。この力は、家庭で、一つの

した児童の評価を行い、特にC評価の児童に対しての支援を明記して、子どもを支援するようにしました。本時の自己課題をはっきりさせるために、本時案と座席表を配布して授業公開をしています。授業後、参観者は、感想用紙に記入して、授業のよさや改善策を伝え合っています。

他にも、清掃終了後の十分間に「チャレンジタイム(ドリル学習)」を位置づけています。この取り組みでは、子ども個々のつまづきに対応できるように方策を模索しています。

今後も、基礎的な力が身につくとき、楽しく分かる授業をめざして、研究を重ねていきたいです。(竹前 和子)

仕事を任せられてきた生徒には育まれていた力かもしれない。本校の三年間を通して、一人一人が違う個の学びをどう育んでいくか、一時間で単元で学期で、そして、年間で評価をしながら、教師が意識して取り組まなくてはいけないのだと感じています。(山崎 茂)



本校の宝⑤1 豊丘小学校

縦割り活動

「わあー、たかあー！あつちへいこう」一年生が六年生の背の上で満面の笑みを浮かべている。六年生は、一年生の楽しそうな声を聞いて、満足そうに一年生が指さす方へ走り出した。本校では、休み時間になると異学年の子どもたちが一緒に遊ぶ光景をよく見かける。一年生がブランコに乗り、六年生が背中を押す。サッカーやキックベースに興じる子どもたちも、二年生から六年生までの合同チームだ。

豊丘小学校は、本年度全校児童一二四名の小規模校である。子どもたちは学年の枠を超えてとても仲が良い。そういった仲間関係を作り出すものは、本校が大切にしている『縦割り活動』である。毎年五月に行われる「班遠足」は、六年生がリーダーとなり、縦割り班で飯盒炊きさんをしてカレーやタケノコ汁を作って食べる。火の扱いは主に高学年児童の仕事だが、低学年児童も薪を運んだり、食器を用意したりして自分のできることを



を手伝う。お腹がいっぱいになった後は、灰野川で水遊びをする。ここでも高学年の子どもたちが手を引いたり、おんぶしたりして低学年の子どもたちと一緒に遊んでいる。おんぶされている子どもたちが、数年後にはおんぶする側に回るのである。

もう一つの縦割り活動が、「縦割り清掃」である。年に二回、三週間ずつ班遠足の縦割り班を基本にして班を作り、清掃をする。リーダーの高学年児童が仕事を分担し、低学年児童に清掃の仕方を指導しながら一緒に清掃する。高学年児童は低学年児童の見本となろうとし、低学年児童は高学年児童のまねをしようとする。お互いが程よい緊張感を持って、黙々と清掃に取り組んでいる。

火ばら 談義



カット
相森中 飯沼祥彦

日滝のヒツキー物語

野崎 勝美

昨年度の児童会長は「児童会のキャラクター作り」を公約の中に掲げ当選した。その公約は、全校へのキャラ募集、アンケート調査へと具体化され、一学期後半ついにキャラが誕生した。

その名は「ヒツキー」。低学年が好んで遊び場になっている雑木林「潤身の森」に住んでいる森の精。緑の衣装に身をつつみ、日滝小平和のため

行事のたびに現れる。

ヒツキーには敵がいた。「デビル新ちゃん」と「ビックピंकかず」だ。しかしこの二人、一年生を迎える会において、ヒツキーによって改心させられた。

今年の児童会長は「ヒツキーの仲間作り」を公約にした。全校アンケートの結果、全校児童の意向は「ヒツキー」に對抗できる強い悪役の登場」で

18人の宇宙探検、大成功！

鈴木 健

学級担任として二度目の音楽会。一年生らしく「かわいく、元氣よく」をテーマにオペレッタをやることになりました。曲から先に決め、そこにセリフや振りをつけながら子どもたちと一緒に考えたオリジナルストーリー、題して「宇宙探検隊」です。

「本番はきつと緊張して間違えちゃったりするかもしれないけど、みんなこの日のために十分がんばってきたんだ。間違えたって気にしないでとにかく

くニコニコ顔で思い切り楽しもうよ。」本番前に私が子どもたちにかけた言葉でした。演奏中は私はピアノを弾くの一杯であまり子どもたちの顔を見るのができなかったのですが、撮ってもらった写真のどれを見ても、子どもたちの顔が本当に生き生きと、いい表情をしていたことを知り、この日のためにがんばってきた本当によかったなあと感じました。ひとりずつ必ずセリフがあったり、一年生にはチョッピリ

あることが判明。代表委員会を中心に新キャラ作りの活動が始まった。

そして運動会前、児童会願の新キャラ「ブルーマス魔」が誕生。運動会児童会種目でヒツキーを倒しに現れた。その軽やかな動きは、まさに仮面ライダー。観衆を魅了した。

かたやヒツキー。視野が狭く（被り物の）なかなかグラウンドへの階段を下りられない。ようやく悪魔の前にたどり着いたと思ったら、悪魔の必殺技「ブルブル攻撃」を受け瀕死の状態。観衆の支援を受け立ち上がったヒツキーは、力を振り絞り「潤身の森パワー光線」で反撃、悪魔を追い払った。

悪魔の反撃はいかに。

(日滝小)

むずかしい「茶色の小瓶」のピアニカに挑戦したり、「うちゅうじんにあえたら」「あの青い空のように」の歌の振り付けを自分たちで考えたりと、とにかくもりだくさんの発表でしたが、短い間で本当に子どもたちがよくがんばってくれました。

音楽会に向けての練習、発表を通して、子どもたちがさらに団結できたことを実感し、あらためて音楽の素晴らしさに触れることができました。感動を与えてくれた十八人の子どもたち(宇宙探検隊に感謝の気持ちでいっぱい！)

(高甫小)

NEXT ONE

「絶えざる向上心で夢の実現」

高山中女子バレーボール部顧問 中 村 幸 博

今年は「全国大会ベスト四」という大きな目標を掲げ、断固たる決意を持って、目標にふさわしい練習や努力をしようと覚悟を決めました。確かに並大抵の練習や努力ではなく、苦しい時の方がはるかに多かったのですが、みんな一つ一つ乗り越えることに着実に成長してきました。その結果、全員で頑張った一つの勝利、全員で努力して一つの結果が得られたのではないかなと思っています。

選手・保護者・地域が頑張れば夢は実現できるんだ」「みんなだる夢は現実になる夢」「努力しても必ず結果が出る」とは限らないが、努力なくして結果はない」ということを発信したいです。

最後に、私はこの三位という結果には納得していますが、まだまだ満足はしていません。いつの日かセクターコート(決勝戦)に立ち「日本一」という夢を実現したいです。今後「NEXT ONE」の精神で、絶えざる向上心を常に持ち、まずは自分自身をより成長させ、より多くの子供・保護者・地域に勇気・夢・感動を与えられる指導者になりたいです。

(高山中)

編集後記

年の瀬が近づき、今年も残すところあとわずかになりました。

子どもたちや教師をめぐる教育環境がめまぐるしく変動する中、私たちの教育実践の確かさが求められています。

二〇七号をお届けします。お忙しい中、玉稿を寄せて頂いた皆様に心より感謝申し上げます。よいお年をお迎えください。

(桂本)



また、全国大会三位という成績は、自分たちも含め長野県内や全国で頑張っている指導者・選手・保護者などに、「村立中学校でも、指導者・